平塚の石仏めぐり

27、河内・纒・徳延・上平塚・諏訪町編

河内路傍 延命地蔵

河内・纒・徳延・上平塚・諏訪町の石仏

河内（こうち）・纒（まとい）・徳延（とくのぶ）は旧旭村の北東部にあたります。公所（ぐぞ）・根坂間（ねざかま）とともに明治 22 年 (1889) に小中村となり、明治 42 年 (1909) には旧淘綾郡（ゆるぎ）の山背（やませ）村と合併して旭村となりました。

河内には神明神社、長泉寺のほかに阿弥陀堂跡があります。石仏は 17 基現存し、そのうち 7 基が阿弥陀堂跡、4 基が長泉寺、2 基が神明神社にあります。路傍に祀られている石仏には、地蔵尊や如意輪観音、道祖神があります。

纒は明治 9 年 (1876) に松延（まつのぶ）・友牛（ともうじ）・久松（ひさまつ）の 3 村が合併し、それぞれの頭文字をとって村名としました。纒神社、松延神社、八坂神社、宗源寺、薬王寺のほか弁天社があります。石仏は 26 基現存し、その大半は寺社に祀られています。路傍には阿古奈志（あこなし）地蔵尊や道祖神などが祀られています。

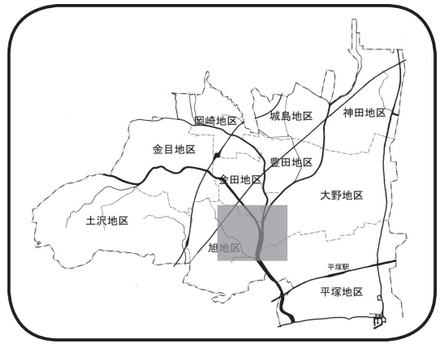
徳延には徳延神社と明王院があります。石仏は 30 基現存し、寺社の境内と徳延 304 路傍の 3 ヶ所に集中しています。路傍には徳本名号塔や地蔵尊などがありますが、最近一部が造りなおされました。

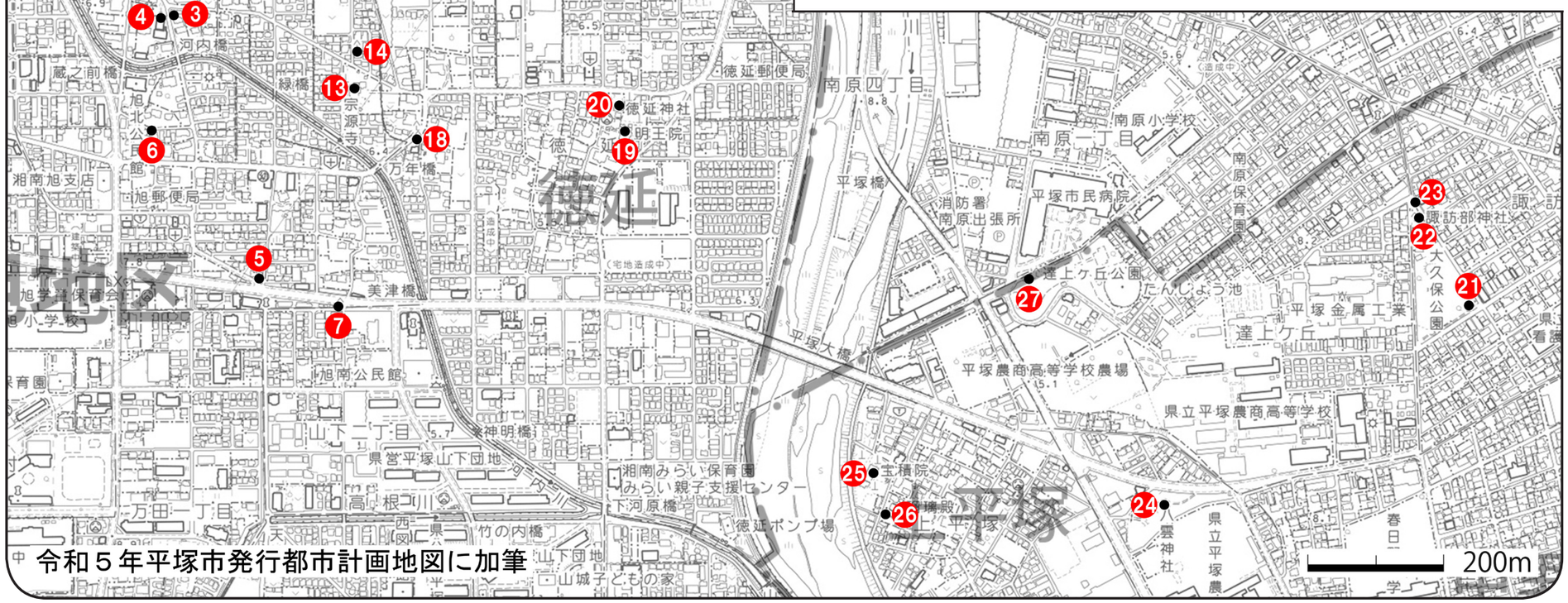
上平塚は江戸時代には平塚本宿に属し、宿場背後の農村地帯を形成していました。このマップでは、上平塚・達上ヶ丘（たんじょうがおか）・諏訪町を対象地域としています。この地域には、八雲神社や諏訪部神社・宝積院（ほうしゃくいん）・薬師堂があり、寺社境内を中心に 33 基の石仏があります。路傍には、巡拝塔・道標や道祖神、水神が祀られています。

河内・纒・徳延・上平塚の石仏所在地と主な石仏

番号	名　称	住　所	主　な　石　仏
1	神明神社	河内 146	手水石、灯篭
2	長泉寺	河内 164	六地蔵、地蔵、石祠
3	河内路傍	河内 201	道祖神
4	阿弥陀堂跡	河内 203	庚申塔、観音、廻国塔、地蔵、読誦塔他
5	河内路傍	河内 377 南	道祖神
6	河内路傍	河内 434	観音
7	河内路傍	河内 521	地蔵
8	纒神社	纒 89	庚申塔
9	纒路傍	纒 97	道祖神
10	纒墓地前	纒 143	観音
11	松延神社	纒 224	灯籠
12	纒路傍	纒 238	地蔵
13	宗源寺	纒 314	徳本名号塔、万霊塔他
14	弁天社	纒 317 北	道祖神
15	纒路傍	纒 392	神名塔
16	薬王寺	纒 466	六地蔵、供養塔、徳本名号塔
17	八坂神社	纒 553	道祖神、庚申塔
18	徳延路傍	徳延 304	徳本名号塔、地蔵、観音、馬頭観音
19	明王院	徳延 365	六地蔵、地蔵、徳本名号塔
20	徳延神社	徳延 369	狛犬、庚申塔、道祖神、水神他
21	大久保公園入口路傍	諏訪町 28	巡拝塔・道標
22	諏訪部神社	諏訪町 28-25	石祠、神使、手水石
23	諏訪部神社裏路傍	諏訪町 28-25 北	道祖神
24	八雲神社	中里 51	庚申塔、庚申塔・灯籠、手水石、観音、馬頭観音他
25	宝積院	上平塚 13-35	六地蔵、地蔵、庚申塔他
26	薬師堂	上平塚 7-18	道祖神、供養塔・万霊塔
27	上平塚路傍	達上ケ丘 14	水神

※ 当ガイドマップに記載されている石仏の基数は令和 3 年集計時点のものです。





石仏めぐりを行う場合の心掛け

石仏は、古来より多くの人々がさまざまな願いをこめて手を合わせ祈ってきたものです。今でも信仰の対象とされているものも数多くありますので、見学に当たっては、敬いの心を持って接しましょう。

また、お寺や神社など石仏の管理者がいらっしゃる場合は、石仏を見学する旨一声かけてから見学しましょう。

平塚の石仏めぐり（27 . 河内・纒・徳延・上平塚編）
発行日：令和 7 年 2 月
編　集：石仏を調べる会
発　行：平塚市博物館
住　所：神奈川県平塚市浅間町 12-41
電　話：0463-33-5111

阿弥陀堂跡の石仏群　（地図番号④）

旭北公民館から北へ河内川を渡ったすぐの四辻に、阿弥陀堂跡があり、石仏群が並んでいます。

庚申塔　高さ 91cm の凝灰岩で作られた角柱型の三猿塔で、 塔正面には「奉［建立］庚［申］供養 ［享］保四年 ［十］月吉日」(1719) とあり、下部に 7 名の造立者名が刻まれています。

聖観音　庚申塔の一段奥に、台石を含めて高さ 135㎝の凝灰岩で作られた聖観音坐像が建っています。

台石正面に「奉造立観音　供養　講中」、左面に「宝暦六丙子閏霜月吉日」、右面に「相州大住郡河内邑中」とあります。

廻国塔　高さ 84cm の凝灰岩で作られた兜巾型の廻国塔で、阿弥陀三尊を表す梵字【 𑖮𑖿𑖨 】 の下に「奉納大乗妙典大日本廻國 天下泰平 日月清明」と彫られています。

河内坂間村の行者である大館伊兵衛が寛政 9 年 (1797) に建てたものです。

庚申塔（享保 4 年）

聖観音（宝暦 6 年）

廻国塔（寛政 9 年）

河内路傍の観音　（地図番号⑥）

路傍の祠に、サラシをまいた如意輪観音が祀られています。

台石正面に「磯崎藤右衛門母とく」と刻まれており、とくさんの長寿を祝って弘化 2 年 (1845) に造立された観音像です。

また、磯崎家の娘さんが妊娠された時、観音の腹部にサラシをまいて安産祈願をしたところ無事に子供が誕生したとのことです。

如意輪観音は一般に安産祈願の仏として祀られています。

如意輪観音（弘化 2 年）

河内路傍の地蔵　（地図番号⑦）

路傍の祠に延命地蔵尊が祀られています。延命地蔵とは人々の苦を身代わりとなって引き受け救済する菩薩です。

宝暦 5 年 (1755) に造立された高さ 1m ほどの坐像です。台石には地蔵の功徳を表す「延命地蔵経」の経文（偈頌）と、村人や行きかう人々を災厄から守り、繁栄と安全を祈願する文言が刻まれています。

ご近所の方がいつも掃除をし、お花を飾って大切に守っています。

地蔵（宝暦 5 年）

纏路傍の地蔵　（地図番号⑪）

総高 43cm と小柄なお地蔵様で、顎が白いのが特徴です。嘉永 5 年 (1852) の造立で、「奥州阿古奈志地蔵尊」と銘があります。

小川家の先祖が長男の吃音を治すため、奥州の阿古奈志地蔵尊を勧請したところ全快したと伝えられます。もとは屋敷内に祀られていましたが、多くの人々のためにと現在地に移されました。「首から上のことに効くので、よくお詣りすれば勉強ができるようになる」とも言われます。

地蔵（嘉永 5 年）

宗源寺の徳本名号塔　（地図番号⑬）

宗源寺は浄土宗の寺院です。境内には徳本上人の直弟子で大会念仏と呼ばれる念仏講を広めた徳延出身の称善和尚の墓があります。

徳本名号塔には、上人独特の書体で「南無阿弥陀仏」と彫られており、慶応 3 年 (1867) 上人の五十回遠忌に建立されました。大会念仏は旧中郡を中心に 4 つの念仏講が組織されていました。宗源寺は仲組の拠点で、この塔には仲組念仏講中 21 ヶ村の名が刻まれています。

徳本名号塔（慶応 3 年）

薬王寺の石仏　（地図番号⑯）

薬王寺は浄土宗の寺院で、新田朝氏が開基とされています。またこの付近は、江戸時代には友牛村とも朝氏村とも書き「ともじむら」と呼ばれていました。

層塔　高さ 3 mほどの三重の層塔が 2 基並んでいます。銘文はなく建立年は不詳ですが、室町時代のものと考えられています。

層塔（年代不詳）

伝承では、新田次郎太郎朝氏の墓とされています。

朝氏は鎌倉幕府を倒し、南朝側で活躍した新田義貞・脇屋義助兄弟の父親です。また 2 基並んでいることから、朝氏夫妻の墓とも言われています。

層塔の前には昭和 58 年 (1983) 建立の供養塔と平成 19 年 (2007) 建立の由来碑があります。

徳本名号塔　高さ約 2 mの堂々とした名号塔です。「天保十己亥秋九月佛日」(1839) とあり、徳本上人の 20 回遠忌直後の建立になります。村講中によって建てられましたが、公所の村民一名も寄進しています。

徳本名号塔は市内に 27 基ありますがそのうち 8 基が旭地区にあり、特に纏と徳延に集中しています。

徳本名号塔（天保 10 年）

八坂神社の石仏　（地図番号⑰）

八坂神社はかつては牛頭天王社といい、友牛村の鎮守でした。境内の北側に石仏群があります。

灯籠（竿）　石仏群の一番左端は灯籠の竿部分で、正面に「奉獻常」、右面に「天明元」（1781）の造立年が刻まれています。

道祖神三基　中央に 3 基の道祖神があります。左側の道祖神は破損も酷く下部は消失していますが、辛うじて正面に「奉納道祖□」、右面に「文化三年」(1806) の銘文がわかります。

中央の塔は下部が埋没していますが、正面に「道祖神」の銘文が読み取れます。

また、右側の双体道祖神は袖中合掌型で、右側の男神像は烏帽子を被り、頭部と袂から下の部分はモルタルで補修されており、左側の女神像の頭部は欠損したままです。

庚申塔　右端の青面金剛が彫られた庚申塔は寛政 12 年 (1800) 建立で、市内では寛政年間に 6 基建立されています。

左より灯籠竿（天明元年）、道祖神（文化 3 年）、同（年代不詳）、同（年代不詳）、庚申塔（寛政 12 年）

徳延路傍の石仏群　（地図番号⑱）

徳延 304 の辻に 7 基の石造物が祀られています。このうち、地蔵と徳本名号塔は交通災害にあい、台石部を残して令和 5 年に再建されました。

地蔵　像容部は元の地蔵とほぼ同じ大きさで作られ、背丈 1.6m、総高約 3m、市内でも四番目の大きさです。

台石の銘文には、法印光宥（明王院第二十世和尚）が法華経六千部を読誦したことを記念して元禄 16 年 (1703) に造立したとあります。

徳本名号塔　2 基の塔部は元の塔とほぼ同じ大きさで作られ、左側の総高約 2.5m の名号塔は天保 3 年 (1833)、右側の総高約 2m の名号塔は文化 14 年 (1817) の造立です。

馬頭観音他　地蔵、名号塔の左脇には明治 44 年 (1911) 造立の馬頭観音や文化 4 年 (1807) 造立の如意輪観音、他に頭部が欠損し造立年代不明の地蔵が 2 基あります。

左　徳本名号塔（令和 5 年）台石（天保 3 年）
中央　地蔵（令和 5 年）台石（元禄 16 年）
右　徳本名号塔（令和 5 年）台石（文化 14 年）

明王院の六地蔵　（地図番号⑲）

明王院は天台宗の寺院で、上野寛永寺の末寺です。

山門手前左側の小屋掛けされた中に、昭和 55 年 (1980) に造立された六地蔵と、顔は摩滅していますがどっしりとした体形の造立年代不詳の地蔵坐像がともに並んでいます。

六地蔵は六道（地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天）のそれぞれにあって衆生の苦しみを救ってくれる尊い存在です。

寺院や墓地の入り口でよく見かけます。

六地蔵（昭和 55 年）と地蔵（年代不詳）

徳延神社の庚申塔　（地図番号⑳）

徳延神社はかつては雷電社といい徳延の鎮守で、相殿として牛頭天王、山王を祀っていました。祭神は別雷命です。

境内北側の神明社脇に庚申塔、道祖神、石祠などの石仏群が並んでいます。ひときわ大きい塔は、元禄 4 年 (1691) に造立された板駒型の庚申塔で、六臂の青面金剛と日月、一鶏、二邪鬼、三猿が彫られています。

通常鶏は二羽を対として彫られ、一羽のみの鶏はここだけです。

庚申塔（元禄 4 年）

八雲神社の石仏　（地図番号㉔）

八雲神社はかつては梵天社といい上平塚の鎮守で、相殿に八幡、春日二座を祀っていました。祭神は須佐之男命です

庚申塔灯籠　本殿左前に寛保 2 年 (1742) に建てられた灯籠があります。

竿の部分には、青面金剛を表す梵字【𑖮】、「奉造立庚申供養」、法華経の偈頌の一部、三猿などが彫られています。

この灯籠には、安政 3 年 (1856) 上平塚が水害を受けた際、代官所へ減免を願い出た村人が帰るまで断食し常灯明を掲げる願をかけ、願いが叶ったため、以後戦前まで毎晩灯明を灯し続けたとの言い伝えがあります。

庚申塔 灯籠（寛保 2 年）

庚申塔　本殿裏手に、万治 3 年 (1660) に建てられた板碑型の庚申塔があります。

江戸時代前期の作風で、正面に青面金剛を表す梵字【𑖮】と「奉待庚申供養二世安樂所」などの銘文が刻まれています。

塔下部には中腰の不見、不聞、不言の三猿が彫られ、市内での三猿像の初出となっています。

庚申塔（万治 3 年）